

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所:地域環境活性化協議会
 編集者:代表幹事 高橋 賢一
 連絡先:市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL0561-51-2878

参加人員 甲子三名 カゴメで、どういう意味で、カゴメ工場上野へ
 明治三十二年(1899)
 蟹江太郎 西洋野菜の栽培に着手
 売れない西洋野菜、トマトをトマトソースやケチャップで大成をおさめた。
 カゴメのすべての商品は、
 「カゴメ」の技術、地球へ
 へんやうして、カゴメに
 工場の心臓を減らす取
 り組みをしています。

こども環境大学
 平成三十三年七月二十五日
 第二講座・第三講座
 カゴメ記念館・博物館前の星
 見学のコース



朝八時
 三分
 スト
 必な時
 間内
 未きた
 野間殿
 守に
 対応す
 られま
 大船
 前を多
 義務局
 渋川



▲トマトソースケチャップの中には、ワタウチの野菜が入っています。カゴメ、ほんのりとしたその中で、やはりトマトが大好きな人の、挙手が一番多いのだ。

▲若手を重んじたから、トマト栽培を手掛けた三年首、太郎は農業試験場で耳にしたあき話、アフリカでトマトを生で食へる、加工して使うようになった。その後のカゴメを誕生させる解謎。

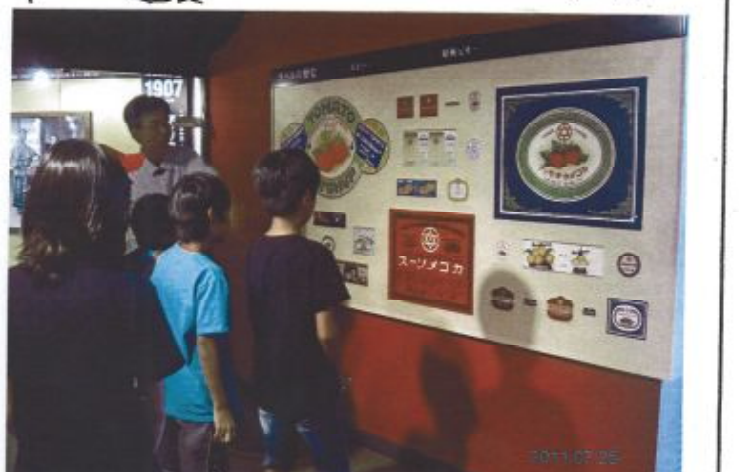


▲カゴメの説明内でトマトを流す機械を見る子供達と、サボターの高校生。

カゴメのラベルの歴史を倉田課長より聞く小学生達



2011.07.25



2011.07.25